

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察特殊報について（送付）
このことについて、発生予察特殊報第3号を発表しましたので送付します。

特 殊 報

平成17年度病虫害発生予察特殊報第3号

平成18年1月6日
熊本県病虫害防除所長

1 病虫害名：バラハオレタマバエ *Contarinia* sp.

2 発生植物：バラ

3 発生確認の経過

平成17年11月、県北部のバラ施設栽培ほ場において、葉が中肋部で折り畳まれて奇形化し、その内部に害虫が発生しているとの報告を受けた。後日、現地を確認したところ、報告と同様の被害葉とその内部に双翅目と思われる幼虫の寄生を確認した。独立行政法人産業技術総合研究所生物機能工学研究部門の徳田誠博士に同定を依頼した結果、県内未確認であるバラハオレタマバエであることが確認された。

4 被害

本種に加害された新葉は、中肋部を中心に折り畳まれ、ハオレ状になり（写真①）、商品価値が低下する。また、高密度時には、蕾の花弁も加害する。ハオレ状になった葉を開くと、体色が乳白色～黄色で体長1～2mmのウジ状の幼虫（写真②）が見られる。古くなった被害葉では、幼虫が地面へと脱出して見あたらない場合も多い。

5 生態

- （1）成虫は、展開途中の新葉の表側の中肋に沿って産卵する。ふ化した一齢幼虫が展開途中の中肋を加害するため、葉は正常に展開せず、ハオレ状になる。25℃の場合、幼虫は産卵から10日程度で成熟し、葉から地面へと脱出する。脱出した成熟幼虫は、土中のごく浅い部分（概ね地表面から1cm以内）で蛹となり、脱出後、8日程度で羽化する。
- （2）山口県での調査によると、本種は5月から10月にかけて年10回程度発生する。5月から8月上旬にかけてと9月中旬から10月にかけての発生が多く、盛夏期は高温、乾燥により発生はほとんど認められなくなる。しかし、冷夏の場合は、夏場も発生する。
- （3）土耕栽培での発生が多く、養液栽培では一時的で小規模な発生のみ確認されている。

6 分布

1998年から2003年にかけて、青森県、岩手県、宮城県、静岡県、広島県、山口県、香川県、福岡県、佐賀県、大分県の各県で発生が確認され、2004年には奈良県、2005年には三重県でも確認された。本種が、侵入種か、土着種が害虫化したのかは不明である。

7 防除対策

現在、バラや花き類に登録のある薬剤のうち、幼虫の虫体浸漬による薬剤感受性検定では、スミチオン乳剤、アディオフロアブル、アドマイヤーフロアブル、モスピラン水溶剤、ベストガード水溶剤、ダントツ水溶剤の殺虫効果が高いことが確認されている。

また、ダイシストン粒剤10g/株処理で約4ヶ月、ベストガード粒剤2g/株処理で約2ヶ月間被害が抑制されることも確認されている。

本種の発生が疑われる場合は、まず最寄りの指導機関や病害虫防除所に相談する。発生が確認された場合は、上記の薬剤を用いて登録されている使用方法の範囲内で防除を行う。



写真① 被害葉（ハオレ症状）



写真② バラハオレタマバエの幼虫

※特殊報は、病害虫防除所のホームページ（<http://www.jpjn.ne.jp/kumamoto>）に公開している（カラー写真使用）。

問い合わせ先

熊本県農業研究センター
生産環境研究所 病害虫研究室
予察指導係（病害虫防除所）
担当：前田、樋口
TEL：096-248-6490